正岡子規 句碑文学散歩

1 正岡子規記念球場（上野公園内）
春風やまりを投げたき草の原
【説明】明治二十三年（一八九〇）、野球好きの子規は、大学予備門の仲間と上野公園の空地でベースボール大会を行っていました。その頃に詠んだ句。

2 五條天神社（上野公園内）
みちのくへ涼みに行くや下駄はいて
秋風や旅の浮世の果て知らず
【説明】明治二十六年（一八九三）、果て知らずの旅発ちに詠んだ句。同年九月に東京へ戻り旅の感慨を書いたのが旅行記「はて知らずの記」です。

3 下谷神社（寄席発祥の地）
寄席はねて上野の鐘の夜長哉
【説明】今から二百年程前に江戸で最初に寄席が催された地で、境内には「寄席発祥の地」の石碑が子規句碑と並んで建っています。

4 入谷鬼子母神（入谷朝顔市）
葬や君いかめしき文學士
入谷から出る朝顔の車哉
【説明】江戸時代から有名な入谷の「あさがお市」を彷彿させる句であり、夏目漱石との交流がうかがえる句です。

5 元三島神社（根岸名所ノ内）
木槿咲て繪師の家問ふ三嶋前
【説明】愛媛県大三島にこの神社の総社があり、そのゆかりから元三島神社に松山俳句協会から子規没後百年記念として寄贈建立された句碑です。

6 笹乃雪（豆腐料理）
水無月や根岸涼しき篠の雪
葬に朝商ひす篠の雪
【説明】この句碑は子規の直筆です。笹乃雪は子規庵の近くにあったので子規はよく利用していました。

7 子規庵（子規旧居）
糸瓜咲て痰のつまりし佛かな
痰一斗糸瓜の水も間にあはず
をととひのへちまの水も取らざりき
【説明】絶筆三句 ― 明治三十五年（一九〇二）九月十八日となる前日に子規が自筆で渾身の力をふりしぼってしたためた辞世の句。生涯の代表句でもあります。

8 羽二重団子（芋坂）
芋坂も團子も月のゆかりかな
【説明】上野の山からこの芋坂を下ると根岸へと通じる道があり、子規もこの団子を好んで食べたといわれています。

9 根岸の里（根岸小学校入口）
雀より鶯多き根岸かな
【説明】江戸末期から明治にかけて、近くの梅屋敷で鶯の啼き合わせが行われました。当時は人家も少なく「鶯の里」と呼ばれていたそうです。

10 御行の松不動尊
薄緑お行の松は霞みけり
【説明】大正時代までここに大きな松があり、どこからも良く見えたといわれています。子規が見た明治期の様子が伺える句です。現在の松は三代目。

11 鷲神社（酉の市）
雑閑や熊手押あふ酉の市
【説明】江戸時代より鷲神社の「酉の市」は有名で、活気に溢れる市の様子が目に浮かびます。

12 山谷堀公園（吉原への舟路）
牡丹載せて今戸へ歸る小舟かな
【説明】江戸時代に新吉原が出来てから「段と賑わいを増して、荷物や客を載せて往来に忙しい堀割風景を詠んだものです。

13 隅田公園（竹屋の渡し）
雪の日の隅田は青し都鳥
【説明】隅田公園の北側の端に、大正時代まで「竹屋の渡し」と呼ばれる渡船場がありました。近くにある待乳山聖天からの眺めを詠んだものと思われます。

14 浅草寺（浅草観音）
観音で雨に逢ひけり花盛
【説明】浅草寺「観音様」はいつでも参詣人が多いですが、子規が参詣した頃は、花も盛んに咲き誇っていたといわれています。

15 子規短歌碑（駒形橋西詰）
浅草の林もわかず暮れそめて
三日月低し駒形の上に
【説明】ここは古来、交通の要地で「駒形の渡し」のあったところです。この歌から明治の時代の景況が偲ばれます。

史跡が保管されている寺院境内等に入る場合は、必ず管理者の許可を得てください。

「リサイクル　一人一人の　心がけ」「環境、ごみ減量・リサイクル」ポスター・標語コンクール優秀作品：桜橋中学校1年　安田　颯杜